



COLUMN

鎌倉の猫事情 第百六話

猫も人間も、女は図太いのです。ですから、猫も人間も女は男より長生きするものです。うちのスィーピーちゃんも、夫グーニー亡き後、気落ちすることも、病気になることもなく、元気に余生を楽しんでいます。もともと丈夫な性質で、37匹の子猫を生み、そのうちの35匹を立派に育て上げた見上げた猫なのです。なるべく好きに生きさせてあげたいと思って、たいていの我ままは聞いてあげています。引っ込み思案な性格ですから、たいてい家の中でのんびり暮らしていますが、夕方になるとお店の入口の屋根に上がって表を眺めるのが好きで、そこでのんびりしていると、「お、またそこにいるのか？ミイちゃんや」なんて、知らないおじさんに声を掛けられたりして、こんな引っ込み思案な猫にも、ちゃんと人間の友達がいるんだ、と少し見直したりしました。ところが、先夜のこと、時々、スィーピーの夕涼みを襲う白猫がいるのは気がついていましたが、その白猫と大喧嘩になりました。スィーピーが不利な情勢になったらしく、ギヤア！と叫びながら部屋の中に逃げてきたのですが、なおも白猫が執拗に追いかけて部屋の中に入りこんできました。私もこれには怒り、近くにあったものを投げて応酬してやりました。その勢いに押されて、さすがの白猫も逃げ出しました。スィーピーは？と、振り返りましたが、どこかに隠れて見当たりません。それっきり、スィーピーはしばらくのあいだ、屋根裏にあるベッドの下に引きこもっていました。ご飯にも降ってこないのです。こんなことは今までなかったことです。スィーピーは鬱になったのかと、本当に心配しました。数日後ようやく姿をみせました。今ではもうすっかりそんな事件は忘れてしまったようですが、この前尻尾の付け根に大怪我しているのを見つけ、スィーピーは、人知れず一人屋根裏で怪我を治していたのだとわかりました。私が言うのもなんですが、スィーピーは、本当に気丈で自立した、感心な猫なんです。 やっぱり、女は図太いようで……



————— to be continued

Planet

private 3

1979年3月、学校を卒業し東京で独り立ちを果たしました。23歳でした。私は昭和31年2月20日、名古屋で生まれました。当時、日本中どここの町にも木造2階建ての長屋が軒を連ねて建っていましたが、私が生まれたのもその類の木造長屋の一番隅の家でした。角から角まで10軒以上連なっており、父は会社勤めをしていましたが、隣は仕立て屋、その隣は玉子屋、その隣は味噌屋、というふうに、長屋の住人のほとんどは、商人か職人だったようです。長屋の真ん中あたりに、一軒だけ少し粋な玄関をこしらえた家があり、そこは芸者さんの家でした。その前を通る時、人の出入りが見えたりすると、子供心になんとはなしにドキドキしたものです。他にも長屋には、肉屋、八百屋、酒屋などがあり、暮らしに必要なものはたいてい間に合いました。玉子屋や味噌屋は少し様子が違って、玉子屋は薄暗いたたきの土間に米の殻を詰めた籠の中に玉子を並べて売っており、味噌屋は大きな樽を並べてお味噌を秤にかけて売っていましたが、当時でも古臭い感じの商売でしたから、私が少し大きくなった頃には店仕舞いしていました。長屋は家と家とは壁で隔てられていますが、屋根裏はずっと繋がっており、夜になると家から家へとネズミが走り回っていました。長屋は昭和の始めに建てられて、戦災を逃れ焼け残ったもので、作りが古く、うち中のものが古びていました。壁を指でほじると土くれが出てきて、それをまた堀じくっていくと藁が出てきて、その奥には竹を組んだものが見えました。壁の中から土やら藁やら出てくるのが不思議で、私がしょっちゅう壁をほじるので、母がその穴を障子紙で張って塞いでいました。母は、夏は洋装でしたが、寒くなると普段でも着物を着ていました。父も勤めから帰ると、着物に着替えてくつろいでいました。お風呂は薪で焚き、台所にはかまどさえあったのです。今こうしてパソコンで、この文章を打ち込んでいるのが夢なのか、それともあの子供の頃が夢だったのか、どちらにしろ、過去と未来はあまりにかけ離れています。子供の頃の大事件といえば、昭和34年9月26日に名古屋を襲った伊勢湾台風でした。長屋の角家だった私の家は、五差路の交差点にあたり、そこに渦巻いた風が、私の家を直撃して家の真ん中を突き抜けたのです。私と姉は当時珍しかったステレオの足の下に隠され、風が止み、台風の目に入った頃、家族4人は犬を連れて近くの鉄筋構造の家に避難しました。ここなら大丈夫よと言われて本当にほっとした事を覚えています。こうして家族4人と犬1匹は助かりましたが、連れて出られなかった猫が、家に帰ると死んでいました。この時の台風で、名古屋の町から板塀が随分と減ったのだと聞いています。長屋も飛ばされた屋根瓦を葺き替え、ブロック塀になりました。

————— to be continued

昭和34年(1959年)カストロは、キューバに社会主義政権樹立



LIVE

ミルクホール 再生記念ライブ

満月の夜

琵琶と尺八の夕べ

8/14 Sun.

19:00~



日本古来の侘しい音色と
JAZZの魂が
ミルクホールで出会い
ました。
満月の夜の幻想に
目を閉じ、
耳を傾けて
お聴きください・・・

琵琶・馬場鶴生

語り・パーカッション他

尺八・榎本秀水

フルート・テナーサックス・唄

HISTORY

場所の記憶 No.53

鎌倉カーニバル

KAMAKURA

昔の鎌倉を知る人達から、鎌倉カーニバルがあった頃の話は何度か聞いた事があります。仮装行列や、ミス鎌倉コンテストがあったなど、いかにも楽しそうな話です。調べてみると、鎌倉カーニバルとは、昭和9年から、戦争をはさんで昭和37年まで行われていた、鎌倉を代表する夏のイベントだったそうです。作家の久米正雄氏が鎌倉町会議員をしていた頃、大仏次郎氏と共に発案し、始められました。久米氏がニースで体験したヨーロッパの謝肉祭を模して考えられたそうです。当時、鎌倉は「海の銀座」と言われるほど、夏の海水浴客で賑わっており、夕方からは砂浜に幕を張って映画会や、演芸会なども行われ、海は大人も子供も楽しめる貴重な娯楽の場でした。鎌倉カーニバルはこのような時代背景の下に始められました。カーニバルは夏の間2週間に渡って行われ、市内各所でも弓道大会など催されていました。カーニバルの目玉の仮装行列は、最終日の日曜の午後に行われ、当日は東京方面からの臨時列車が増便される程、多くの見物客が集まったという話です。当時の写真を見ると、アメリカ生まれのキャラクターのベティさんが大海老にまたがって祭神になっていたり、月光仮面や狸の扮装の人もいて、実に楽しげです。

今年は、3.11の東日本大震災の後、鎌倉は早々と4月には毎年恒例の花火大会の中止を決めていました。何とも寂しい限りです。と、皆が思っていたところ、市民でやる「鎌倉大線香花火大会」というチラシがミルクホールに舞い込んできました。恒例の花火大会がないなら市民主催でやろうじゃないかと、という話が湧き上がったようです。7月30日土曜日、午後8時から皆、線香花火持参で由比ガ浜海岸に集まろうという趣旨だそうです。「鎌倉カーニバル」のように、楽しい事は、市や、観光協会をあてにしないでやろう！という事には、ミルクホールも賛成です。なんだか今まで、そういう事までお上に任せ過ぎていたんじゃないだろうか？楽しくないなんて言う前に、自分達で考えて、とことん楽しんでいこうじゃありませんか。ミルクホールの提案は、7月30日土曜日の「鎌倉大線香花火大会」の時間に合わせて、鎌倉の路地という路地で、てんで勝手に通行人も巻きこんで線香花火をしませんか？という小さな提案です。その日までに、線香花火沢山買っておきますから、ミルクホールで、「鎌倉小線香花火大会」ご一緒に如何でしょうか？

7/30(土) PM8:00~

鎌倉大線香花火大会 由比ガ浜海岸にて

同時開催 鎌倉小線香花火大会 ミルクホールにて

Information

ミルクホールタイムス 総集編
「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムスを1986年の創刊号より、100号までまとめた総集編です。人気連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から第一部の終わりまで、他にガラクタ通信、ミルクホール30年の逸話など掲載しています。
¥1500

ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しています。定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送します。お申し込みは、当店か、ミルクホールHPにて。お葉書、FAX、メールなど、お待ちしております。
年間購読料 ¥1500



ミルクホールタイムス創刊号

ミルクホール

骨董・ガラクタ市

夏の市

7/16 Sat. 18 Mon.

懐かしい時代の香り

日本の木の手触りを大切にしたい
ミルクホールの蚤の市

ミルクホールのアンティークは

明治・大正時代の日本のものを中心に
古き良き時代の暮らしの中で親しまれた品々を
手ごろな価格で揃えています。

中には意外な掘り出し物も...

♠ 和洋家具

- ★★大正時代ガラスケース各種
- ★★昭和初期本箱各種
- ★★イギリス製アンティークテーブル

- ★★大正時代水屋箆笥 下段
- ★★昭和初期椅子各種
- ★★昭和初期踏み台 ★★梯子
- ★★明治・大正時代小箆笥各種
- ★★昭和初期丸椅子
- ★★昭和初期文机★★窓各種
- ★★昭和初期花台
- ★昭和本立て各種
- ★裁縫台各種★ちゃぶ台

♣ 骨董

- ★唐時代獅子石像
- ★弥生時代壺
- ★宋時代白磁
- ★アフガン石仏
- ★北齊仏頭
- ★漢時代瓦

♣ 古陶磁

- ★★伊万里赤絵皿10枚組
- ★★伊万里みじん唐草なます皿
- ★★黄瀬戸小皿5枚組

- ★★古伊万里印判小皿
- ★★古伊万里白磁そば猪口
- ★★明末染付け徳利
- ★★伊万里染付け小皿
- ★★明治錦絵小皿
- ★★明治べろ藍鉢
- ★★大正色絵猪口・皿

♥ 古民芸

- ★★大正蒔絵漆碗
- ★★李朝盆各種
- ★★漆お碗・茶托・御膳
- ★★明治道具箱・樽など
- ★★糸巻き・大小
- ★引出し各種 ★行灯
- ★明治衣装盆

伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク

ミルクホールにて

朝11時より

★古陶磁・アンティーク

30% off

◆ アンティーク

ドイツ製 蓄音機

- ★★ビクター犬
- ★★大正・昭和初期ガラス器
- ★★ランプシェード各種
- ★★昭和初期目覚まし時計
- ★★昭和ティーカップ各種
- ★★アクセサリ色々

✂ 古布・古裂

半衿・帯揚げ

昔の着物をほどこいて絹の半衿に
仕立てました。着物のおしゃれのポイントは半衿です。
同じ着物も、半衿を変えるだけで、
別の着物のように生まれ変わります。
自分の個性に合わせたコーディネートで、楽しみませんか。

- ★無地の半衿 ￥500より
- ★銘仙・絞りなど ￥800より

✂ 帯

★夏帯色々 新入荷

半幅帯・名古屋帯など
絹・麻・木綿など

✂ 古布

大島紬・絞り
・銘仙など